

平成26年木造建築士試験

試験場	受験番号	氏名
	—	

問題集

学科Ⅲ（建築構造）

学科Ⅳ（建築施工）

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

1. この問題集は、学科Ⅲ（建築構造）及び学科Ⅳ（建築施工）で一冊になっています。
2. この問題集は、表紙を含めて14枚になっています。
3. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
4. 問題は、全て五枝択一式です。
5. 解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に所定の要領ではっきりとマークして下さい。
6. 解答に当たり、適用すべき法令については、平成26年1月1日現在において施行されているものとします。
7. 解答に当たり、地方公共団体の条例については、考慮しないことにします。
8. この問題集については、試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます（中途退出者については、持ち帰りを禁止します）。

学科Ⅲ（建築構造）

〔No. 1〕 木造建築物に作用する荷重及び外力に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 基礎に作用する外力には、土圧、水圧、地震力等がある。
2. 積雪荷重は、原則として、積雪の単位荷重に、屋根の水平投影面積及びその地方における垂直積雪量を乗じて計算する。
3. 積雪荷重は、屋根に雪止めがなく、屋根勾配が60度を超える場合、零とすることができる。
4. 常時における長期に生じる力は、固定荷重又は積載荷重によって生じる力のいずれか大きいほうとする。
5. 同じ規模・形状の建築物であっても、地上部分に作用する地震力は、一般に、木造建築物より鉄筋コンクリート造建築物のほうが大きい。

〔No. 2〕 木造建築物に作用する地震力及び風による水平力に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 地震力と風による水平力とは、同時に作用しないものとする。
2. 地震力及び風による水平力に対する検討は、建築物のほり間方向又は桁行方向のいずれかの方向について行う。
3. 風による水平力の大きさは、同じ規模・形状の建築物であっても、近接する他の建築物の有無によって異なる場合がある。
4. 風による水平力は、一般に、2階部分より1階部分のほうが大きい。
5. 地震力は、一般に、屋根葺材を日本瓦から住宅屋根用化粧スレートに葺き替えると、小さくなる。

〔No. 3〕 木造建築物における部材の名称とそれを使用する部位等との組合せとして、**最も不適当なものは、次のうちどれか。**

1. 親柱 ————— 軸組
2. ささら桁 ————— 階段
3. フーチング ————— 布基礎
4. 対束 ————— 洋小屋組
5. 稲子^{いなご} ————— 天井

〔No. 4〕 地盤又は木造建築物の基礎に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 洪積層は、一般に、支持地盤として沖積層より安定している。
2. 三角州は、一般に、細かい土粒子が堆積しているので、地震時に液状化を起こしやすい。
3. 地盤の長期許容応力度(地耐力)が 40 kN/m^2 の場合、2階建の建築物にあっては、鉄筋コンクリート造の布基礎の底盤の幅を 24 cm とする。
4. 地盤の凍結のおそれのない地域では、鉄筋コンクリート造のべた基礎の根入れ深さを 12 cm 以上とする。
5. 塩害のおそれのある地域では、基礎の鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを大きくする。

〔No. 5〕 木造軸組工法による2階建の建築物において、土台又はアンカーボルトに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 同じ大きさの鉛直荷重が作用する柱の土台へのめり込み量は、一般に、土台の材中間部より材端部のほうが大きくなる。
2. 建築物に地震力や風による水平力が作用すると、土台には曲げ応力が生じる場合がある。
3. アンカーボルトに用いる角座金の寸法は、アンカーボルトの軸径、土台へのめり込みを考慮して決定する。
4. アンカーボルトの土台への締付けに当たり、アンカーボルトの先端は、土台の上端において、一般に、ナットからねじが3山以上突き出るように固定する。
5. アンカーボルトは、間隔が3m以下となるように配置する。

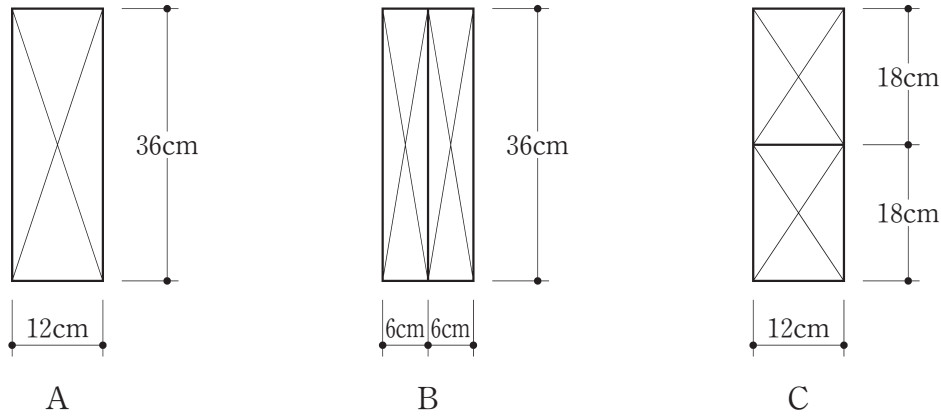
〔No. 6〕 木造軸組工法による建築物の柱又は横架材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床梁の横振れを小さくするためには、梁の材せいを大きくするよりも材幅を大きくするほうが効果的である。
2. 柱材には、針葉樹よりも広葉樹のほうが用いられることが多い。
3. 頭つなぎは、柱上部をつなぐ部材で、屋根荷重を受けないものをいう。
4. 管柱は、構造耐力上主要な部材である。
5. 柱の座屈は、欠込みが柱の端部にあるよりも中央部にあるほうが起こりやすい。

〔No. 7〕 木造建築物の柱の断面寸法を決める場合、最も重要性の低いものは、次のうちどれか。

1. 柱の間隔
2. 間柱の断面形状
3. 横架材相互間の垂直距離
4. 壁の重量
5. 屋根葺材の種類

[No. 8] 図のような断面を有する製材(木材)の梁A～Cの曲げ強さの大小関係として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、全ての梁の材質、支持条件及びスパンは同一とし、梁B、Cを構成する部材はそれぞれ相互に接合されていないものとする。

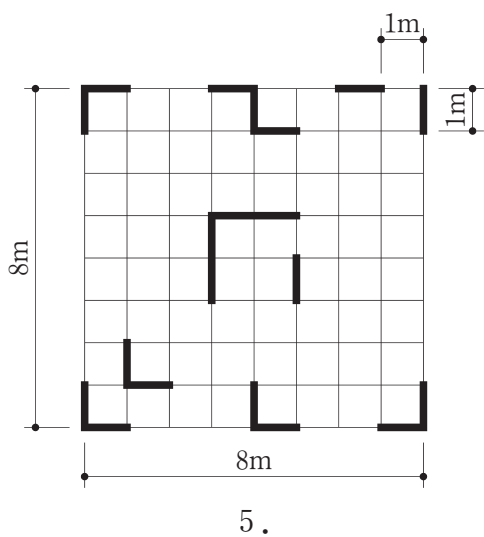
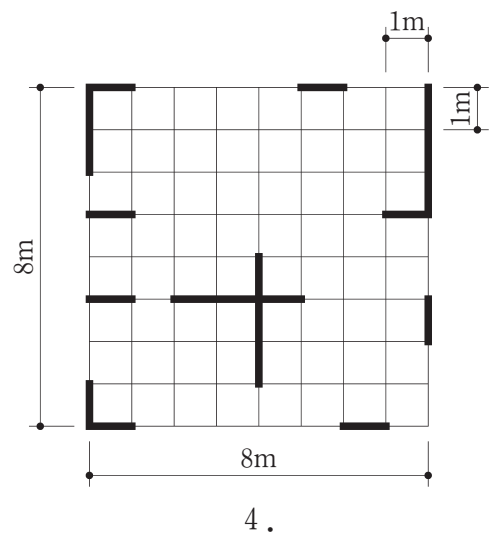
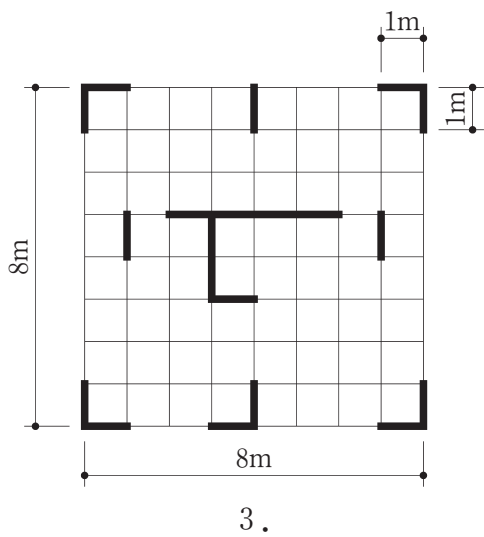
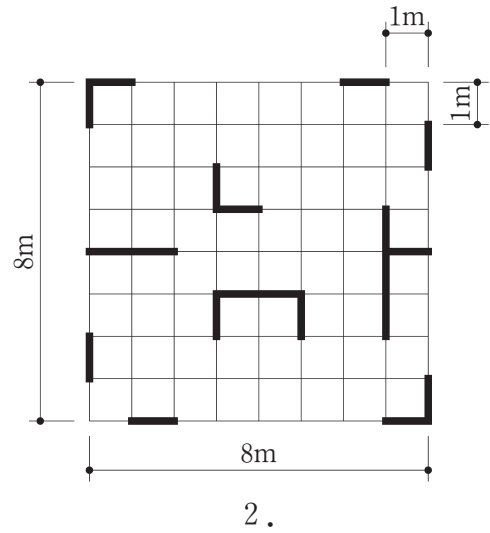
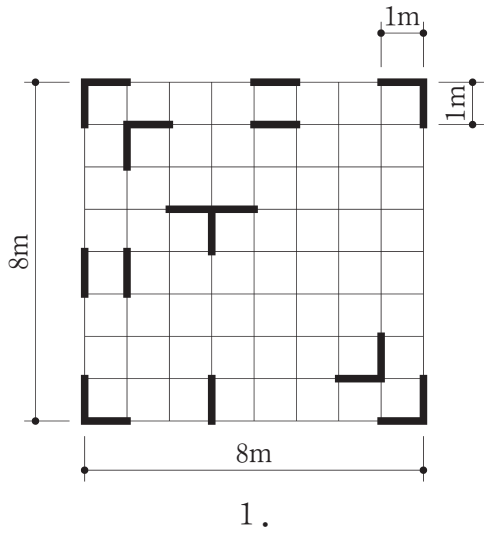


1. $A > B > C$
2. $A = C > B$
3. $C > A = B$
4. $A = B > C$
5. $A = B = C$

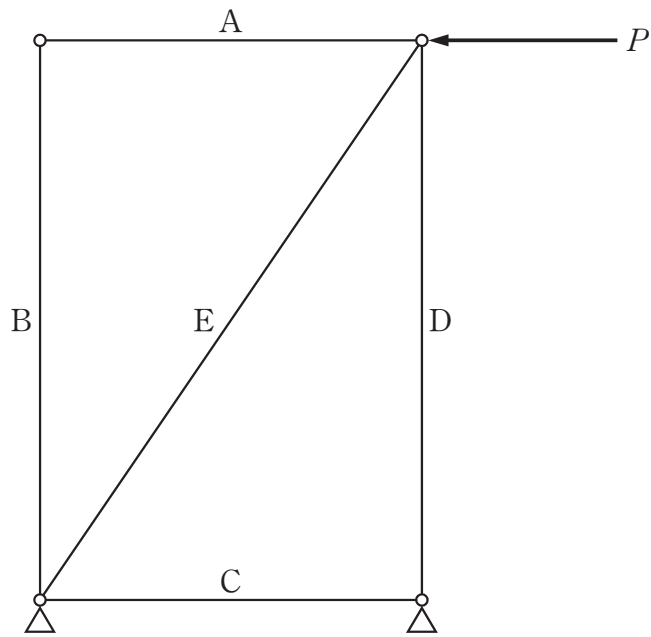
[No. 9] 木造軸組工法による2階建の建築物の耐力壁に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 耐力壁線相互の間隔が8m以下となるように、平面を計画した。
2. 下屋がある建築物において、下屋部分では平家建で必要とされる壁量を満足する計画とした。
3. 2階の耐力壁の両端部を支えるように、その耐力壁の両端部の直下に1階の柱を配置した。
4. コの字形の平面形状を有する建築物であったので、その平面をいくつかの長方形の区画に分割し、それぞれの区画で壁量を満足するように耐力壁を配置した。
5. 平面的な剛性分布のバランスの指標である偏心率が0.35以上となるように、耐力壁を配置した。

[No. 10] 木造軸組工法による平家建の建築物(屋根は日本瓦葺：地震力に対する必要壁率は 15 cm/m^2 である。)において、図に示す平面の耐力壁(図中の太線)の配置として、最も不適当なものは、次のうちどれか。ただし、全ての耐力壁の倍率は1とする。

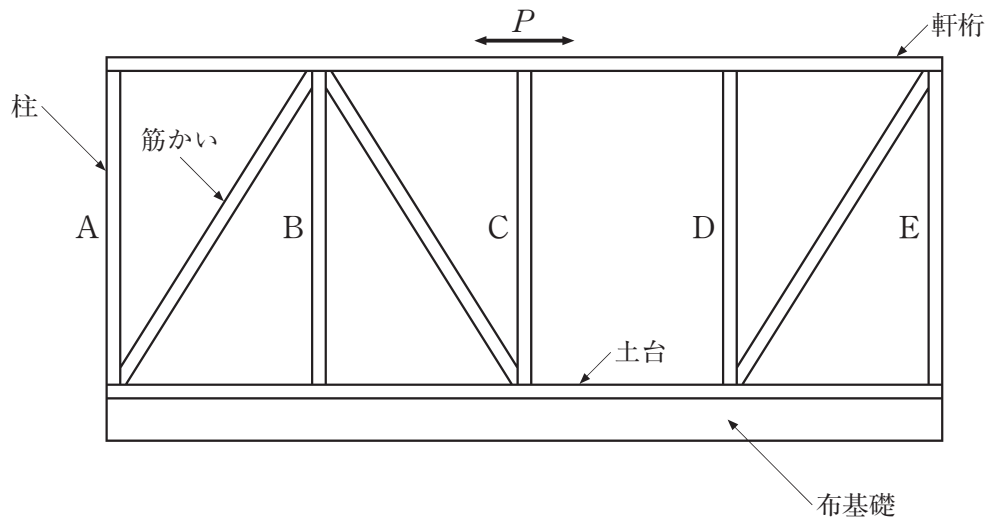


[No. 11] 図のような軸組における部材A～Eについて、水平力 P が作用することにより引張力を受けるものは、次のうちどれか。



1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

[No. 12] 平家建の木造建築物において、図のような外周部の軸組に水平力 P が作用した場合、柱A～Eについて、柱の脚部に生じる引抜き力が、最も大きいものは、次のうちどれか。ただし、木材の筋かいの断面寸法は全て $4.5\text{ cm} \times 9\text{ cm}$ とし、図中の各部材の接合部には、必要な金物を使用されているものとする。

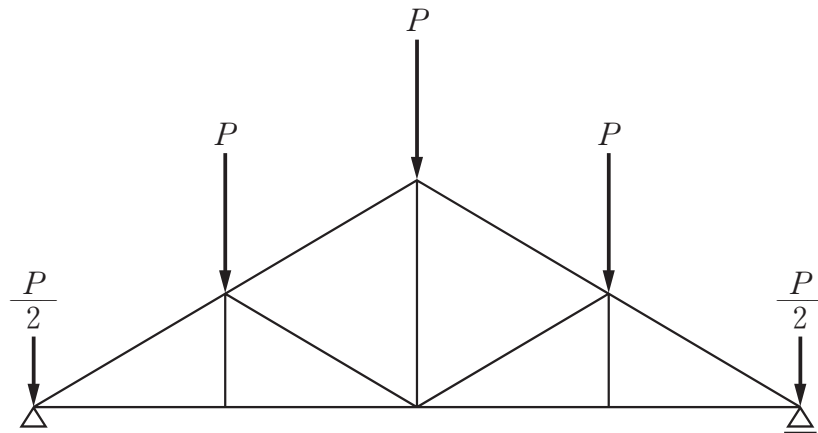


1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

[No. 13] 木造建築物の小屋組に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 束立て小屋組は、小屋梁の上に小屋束を立て、棟木・母屋などを支える小屋組である。
2. 桔木は、軒の出を深くするために、てこの原理によって鼻母屋・茅負を支える部材である。
3. 与次郎組は、2本の斜材と小屋梁によって三角形の骨組を構成する小屋組である。
4. 小屋貫は、小屋組の変形を防ぐために、2本以上の小屋束を貫いて配置される水平材である。
5. 和小屋は、一般に、住宅などのように間仕切壁が多く、はり間(スパン)の小さい場合に用いる小屋組である。

[No. 14] 図のような荷重が作用する小屋組に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。



1. 屋根勾配が小さくなると、真束に作用する力は小さくなる。
2. 屋根勾配が小さくなると、陸梁^{ろく}に作用する力は大きくなる。
3. 屋根勾配が大きくなると、合掌に作用する力は小さくなる。
4. 屋根勾配が大きくなると、方づえに作用する力は小さくなる。
5. 屋根勾配にかかわらず、支点到作用する力は変わらない。

[No. 15] 次の木造建築物の2階床組のうち、床の水平剛性が最も高いものはどれか。
ただし、火打材は用いないものとし、根太又は梁・桁への釘打ちはそれぞれ所定の方法によるものとする。

1. 構造用合板(厚さ 12 mm)を、落とし込みの根太(間隔 455 mm)に打ち付けたもの
2. 構造用合板(厚さ 12 mm)を、半欠きの根太(間隔 455 mm)に打ち付けたもの
3. 構造用合板(厚さ 12 mm)を、転ばしの根太(間隔 455 mm)に打ち付けたもの
4. 構造用合板(厚さ 24 mm)を、根太を設けず、梁・桁に直接、川の字打ちとしたもの
5. すぎ板(幅 180 mm、厚さ 12 mm)を、落とし込みの根太(間隔 303 mm)に打ち付けたもの

〔N o. 16〕 枠組壁工法又は木質プレハブ工法による木造建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、構造計算は行わないものとする。

1. 外壁の耐力壁において、木質接着複合パネルを用いることにしたので、枠組壁工法による耐力壁を併用しないようにした。
2. 耐力壁線に設ける開口部の幅を 3.6 m とし、かつ、その幅の合計を当該耐力壁線の長さの $\frac{1}{2}$ とした。
3. せっこうボード張り耐力壁のせっこうボードの取付けに、CN50 釘を用いた。
4. 屋根を構成する垂木相互の間隔を 455 mm としたので、屋根下地材(屋根下張り材)に、厚さ 9 mm の構造用合板を用いた。
5. 耐力壁線により囲まれた部分の水平投影面積が 60 m²であったので、床の枠組材と床材とを緊結する部分を、構造耐力上有効に補強した。

〔N o. 17〕 木造軸組工法による 2 階建の建築物の構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. スパン 4.55 m、梁間隔 1.82 m の床梁として用いる製材(べいまつ)の断面寸法を、幅 120 mm × せい 180 mm とした。
2. 地震時における建築物の平面的なねじれを防止するために、耐力壁を釣り合いよく配置するとともに、床組の面内剛性を大きくした。
3. 2 階をオーバーハングとしたので、オーバーハング部分の床面積を 1 階の床面積に加えたものを、1 階の地震力に対する壁量計算用の床面積とした。
4. 断面寸法が 9 cm 角の木材の筋かいが取り付く通し柱と胴差との仕口部分を、ホールダウン金物(引寄せ金物)を水平に用いて補強した。
5. 敷地が軟弱な地盤であったので、建築物に配置する耐力壁の量を増やした。

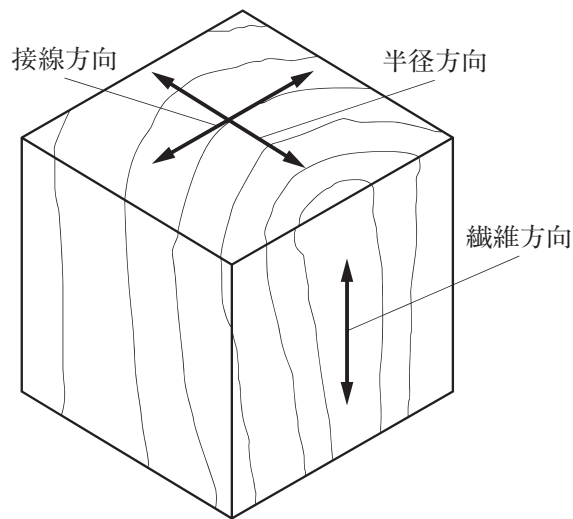
〔No. 18〕 木造軸組工法による2階建の既存建築物の耐震性を向上させる方法として、一般に、最も効果の低いものは、次のうちどれか。

1. 無筋コンクリート造の布基礎であったので、あと施工アンカーによる差し筋を行い、新たに鉄筋コンクリート造の布基礎を抱き合わせた。
2. 足固めのない玉石基礎であったので、地盤面上に一体の鉄筋コンクリート造の底盤を設け、足固め・接合金物等を用いてその底盤と柱脚部とを緊結した。
3. 1階床組の大引と根太を、接合金物によって緊結した。
4. 大きな吹抜け部分を、キャットウォークや火打材を用いて補強した。
5. 耐力壁を構成する柱の劣化部分を根継ぎにより交換し、当該接合部を接合金物により補強した。

〔No. 19〕 木造建築物の各部における鉛直荷重による力の流れとして、最も不適當なものは、次のうちどれか。

1. 1階床荷重(束立て床・布基礎)
床板 → 根太 → 大引 → 床束 → 束石
2. 1階天井荷重
天井板 → 野縁 → 野縁受 → 吊木^{つり} → 吊木受^{つり} → 梁
3. 2階床荷重(組床)
床板 → 根太 → 小梁 → 大梁 → 胴差 → 柱
4. 屋根荷重(和小屋折置組)
野地板 → 垂木 → 母屋^{もや} → 小屋束 → 小屋梁 → 柱
5. 屋根荷重(洋小屋)
野地板 → 垂木 → 母屋^{もや} → 合掌 → 敷桁 → 陸梁^{ろく} → 柱

[No. 20] 図のような木材が乾燥して収縮する場合、各方向の収縮の大きさの大小関係として、正しいものは、次のうちどれか。



1. 半径方向 > 接線方向 > 繊維方向
2. 半径方向 > 繊維方向 > 接線方向
3. 繊維方向 > 接線方向 = 半径方向
4. 接線方向 > 半径方向 > 繊維方向
5. 接線方向 = 半径方向 > 繊維方向

[No. 21] 木材の一般的な性質に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 比重の大きい樹種は、一般に、比重の小さい樹種に比べて、圧縮強度が大きい傾向にある。
2. 大気中に長期間放置した状態で乾燥させた木材の含水率は、我が国においては約15%である。
3. 「製材の日本農林規格」に適合する構造用製材(樹種・区分・等級が同一)の繊維方向の圧縮、引張及びせん断の基準強度の大小関係は、一般に、圧縮 > 引張 > せん断である。
4. 長期間一定の荷重を継続的に木材に加えることにより、たわみが徐々に増加する現象を、クリープという。
5. 木材の圧縮強度は、繊維方向より繊維に直角方向のほうが大きい。

〔No. 22〕 木質材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 日本工業規格(JIS)において、繊維板は、その繊維の長さによってインシュレーションボード、MDF及びハードボードに区分されている。
2. 「集成材の日本農林規格」において、構造用集成材には、直接外気にさらされる環境、構造物の火災時でも高度の接着性能を要求される環境等において、使用できるものがある。
3. 「合板の日本農林規格」において、1類に区分された構造用合板は、断続的に湿潤状態となる場所において使用することができる。
4. パーティクルボードは、木材の小片と接着剤とを混合して加熱圧縮成形したものである。
5. 枠組壁工法構造用たて継ぎ材は、挽板^{ひき}をフィンガージョイントによって長さ方向に接着したものである。

〔No. 23〕 木造建築物の腐食・防腐・防蟻等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 乾燥した木材を食害するアメリカカンザイシロアリの被害が、我が国においても確認されている。
2. 接合金物の劣化による強度低下の防止には、鋼材の厚さの確保、防錆^{せい}処理などが有効である。
3. 木材の腐朽菌は、酸素・温度・水分・栄養源のうちの、どれか一つの条件を満たすと繁殖する。
4. 集成材は、積層する前のラミナに加圧式保存処理として木材保存剤を注入することにより、全層に保存剤を浸潤することができる。
5. 辺材は、一般に、心材に比べて耐蟻性に劣る。

〔No. 24〕 コンクリートに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの中性化は、空気中の二酸化炭素等と反応することによって、コンクリートのアルカリ性が失われる現象である。
2. コンクリートは、セメントと水が水和反応することによって発熱する。
3. 常温時におけるコンクリートの線膨張係数は、鉄筋の線膨張係数とほぼ等しい。
4. コンクリートは、一般に、水に対するセメントの量が多くなると、強度は低くなる。
5. コンクリートは、水、セメント、細骨材、粗骨材などを練り混ぜたものである。

〔No. 25〕 建築材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ALCパネルは、耐火性及び断熱性に優れているが、吸水性が高いので、寒冷地では凍害を受けるおそれがある。
2. ステンレス鋼は、主成分であるアルミニウムに、クロムやニッケルなどを配合した合金である。
3. MDF(中質繊維板)は、内装材として用いられる。
4. 網入り板ガラスは、割れてもガラスが飛散しにくいので、防火用のガラスとして用いられる。
5. せっこうボードは、防火性に優れている。

学科IV（建築施工）

〔No. 1〕 施工計画を立てるに当たって、さしあたり必要でないものは、次のうちどれか。

1. 設計図・標準仕様書の確認
2. 現寸図・施工図の作成
3. 本工事積算数量書の作成
4. 敷地境界・ベンチマークの把握
5. 隣家の状況の把握

〔No. 2〕 工事現場の安全確保に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 単管足場の壁つなぎの間隔は、垂直方向5 m以下、水平方向5.5 m以下とした。
2. 架設通路の勾配が20度であったので、踏棧その他の滑止めは設けなかった。
3. 作業者の墜落の危険がある箇所には、高さ95 cmの手摺及び中棧を設けた。
4. 高さが2 mの作業床において、安全帯を使用した。
5. 吊り上げ荷重が1 t未満のクレーンの玉掛け作業であったので、所定の資格者(安全のための特別の教育を受けた者)を、その作業につかせた。

〔No. 3〕 木造2階建の住宅における基礎工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. べた基礎底盤に設ける水抜き孔は、工事完了後も塞がずにそのまま使用した。
2. 柱脚部の短期許容耐力が25 kN以下のホールダウン専用アンカーボルトのコンクリートへの埋込み長さは、360 mmとした。
3. 普通ポルトランドセメントを用いたコンクリートの打込み後、最低気温が15℃を下回らなかったため、その型枠の存置期間を3日とした。
4. ねこ土台を採用することにより、基礎コンクリート部分に床下換気孔を設けずに、必要な床下の換気を確保した。
5. 基礎断熱とするに当たり、基礎コンクリートと土台の間には、気密パッキンを用いた。


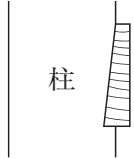

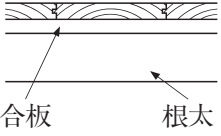
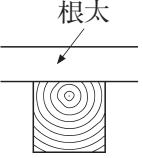
〔No. 4〕 木造2階建の住宅における土工事・地業工事に関する次の用語の組合せのうち、最も不適当なものはどれか。

1. 山留め ————— 切ばり
2. 捨てコンクリート地業 ————— 墨出し
3. 遣方^{やりかた} ————— 矢板
4. 根切り ————— つぼ掘り
5. 目つぶし砂利 ————— 再生碎石

〔No. 5〕 木造住宅における木材の一般的な使い方として、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 梁の継手においては、元口を男木^{おぎ}、末口を女木^{めぎ}として用いた。
2. 柱には、背割りを入れた心持ち材を用いた。
3. 天井板は、板目で木取りして用いた。
4. 梁は、背を上にして用いた。
5. 柱は、元口を土台側にして用いた。

〔No. 6〕 図のような木造住宅における部材と木材の使い方との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

	部材	木材の使い方
1.	竿縁	
2.	長押	柱 
3.	敷居	
4.	床板	合板 根太 
5.	大引	根太 

〔No. 7〕 木造軸組住宅の施工順序として、最も適切なものは、次のうちどれか。

1. 建方 → 本筋かい → ゆがみ直し → 仮筋かい
2. 建方 → 仮筋かい → 本筋かい → ゆがみ直し
3. 小屋束 → 垂木 → 母屋^{もや} → 棟木
4. 大引 → 床束 → 根太 → 下地板
5. 床束 → 大引 → 根太 → 下地板

〔No. 8〕 木造軸組住宅における部材と樹種との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 火打土台 ————— ひのき
2. 桁 ————— あかまつ
3. 筋かい ————— べいつが
4. 大引 ————— すぎ
5. 垂木 ————— スプルース

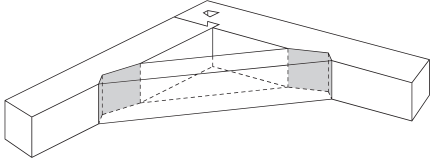
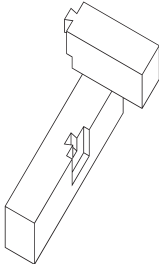
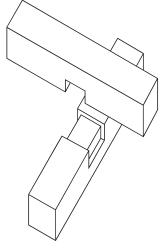
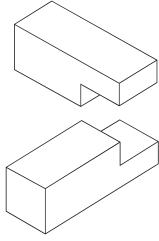
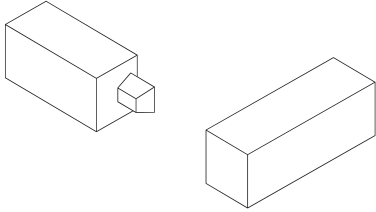
〔No. 9〕 木造2階建の住宅における合板等の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大壁造の構造用面材を、厚さ7.5 mm以上の構造用合板とした。
2. 大壁造の面材耐力壁において、せっこうボード張り用の壁胴縁の断面寸法は、15 mm × 45 mm以上とした。
3. 構造用面材を柱、梁等以外で継ぐ場合の受け材の断面寸法は、30 mm × 90 mm以下とした。
4. 真壁造の構造用面材の受け材の断面寸法は、30 mm × 40 mm以上とした。
5. 真壁造の面材耐力壁において、構造用合板の留付けに当たり、釘打ちの間隔を150 mm以下とした。

〔No. 10〕 木工事において、部材、継手及び継手位置の組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- | (部材) | (継手) | (継手位置) |
|---------------------|---------------------|---------|
| 1. 小屋梁 | 台持継ぎ | 受け材上 |
| 2. 母屋 ^{もや} | 鴉 ^{いすか} 継ぎ | 束心 |
| 3. 胴差 | 追掛け大栓継ぎ | 柱心から持出し |
| 4. 根太 | そぎ継ぎ | 受け材心 |
| 5. 大引 | 腰掛け蟻継ぎ | 束心から持出し |

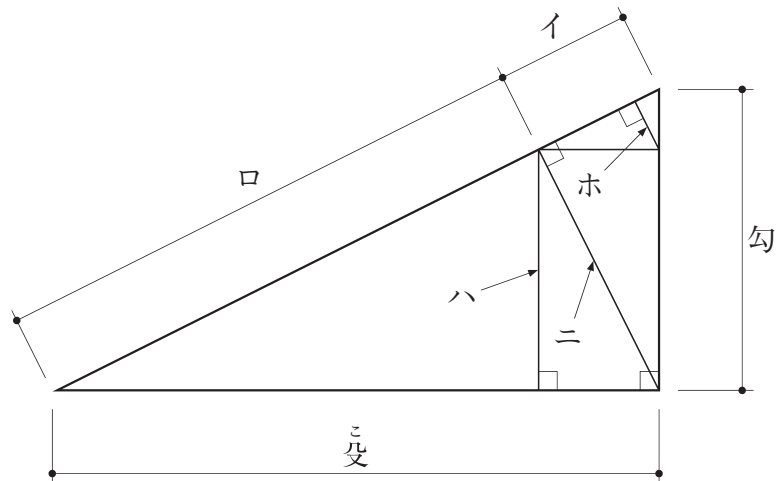
[No. 11] 図に示す木工事における仕口とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

	仕 口	名 称
1.		かたぎおおいれ
2.		かぶとありかけ
3.		わたりあご
4.		あいがき
5.		おうぎほぞ

[No. 12] 木造軸組工法において用いる接合金物とその接合箇所との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. くら金物 ————— 垂木と軒桁
2. ひら金物 ————— 床束と大引
3. かど金物 ————— 柱と土台
4. コーナー金物 ————— 軒桁と小屋梁
5. かね折り金物 ————— 通し柱と胴差

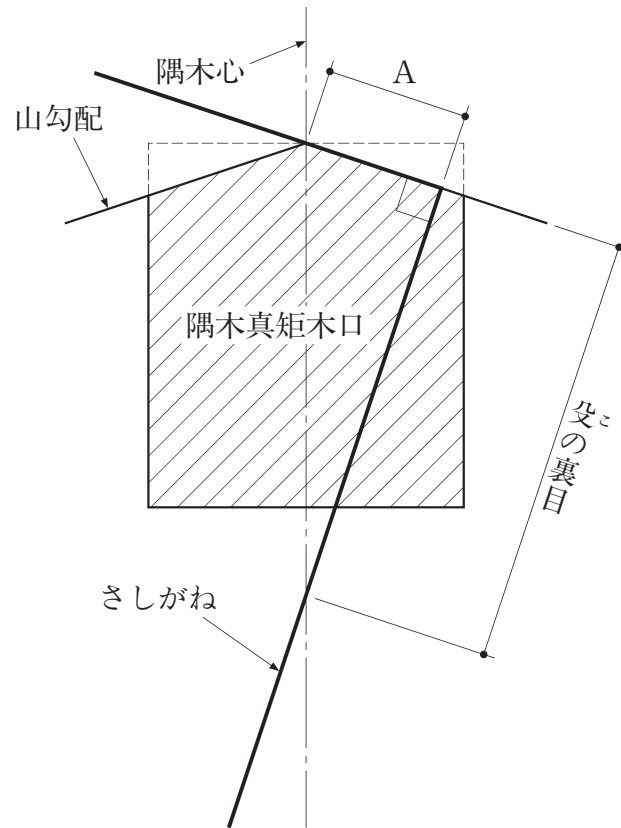
[No. 13] 規矩基準勾配図きくにおける線分イ～ホとその名称との組合せとして、誤っているものは、次のうちどれか。



規矩基準勾配図きく

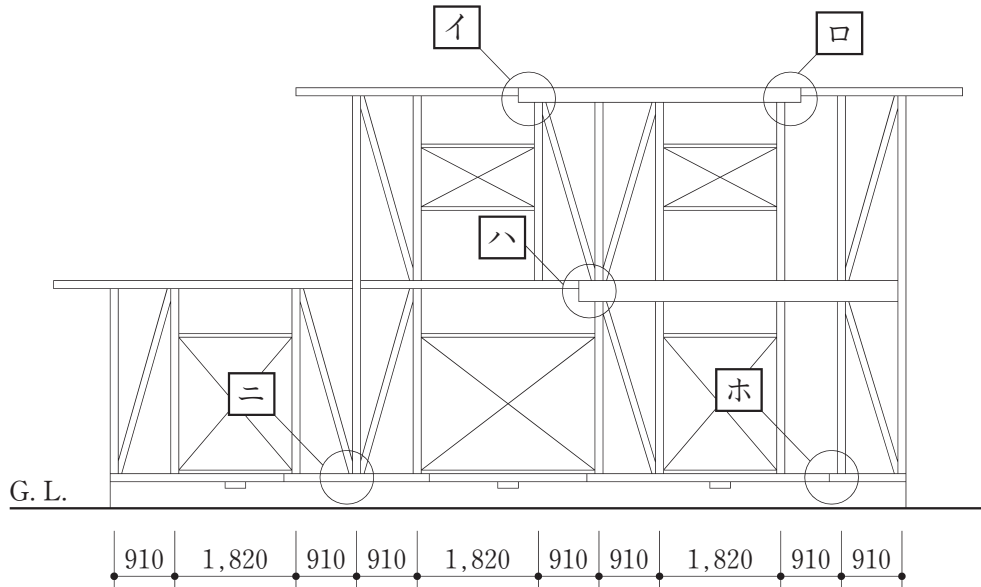
1. イ ————— 短玄
2. ロ ————— 長玄
3. ハ ————— 欠勾
4. ニ ————— 小爰こ爰
5. ホ ————— 小中勾

[No. 14] 図は、棒隅木の山勾配の取り方におけるさしがね使いを示したものである。
 図中のAの寸法として、正しいものは、次のうちどれか。



1. 隅中勾
2. 交_こ
3. 短玄
4. 中勾
5. 欠勾

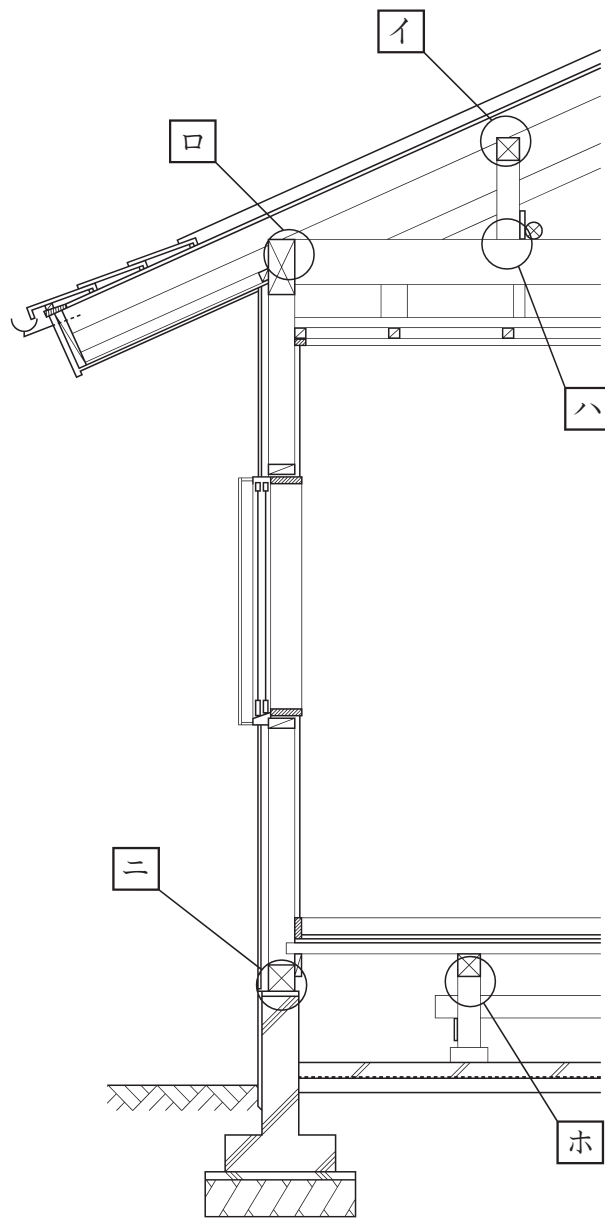
[No. 15] 図のような木造2階建住宅の南側外壁面軸組図において、**イ**～**ホ**に示す部分のうち、**最も不適当なものは、次のうちどれか。**ただし、全ての継手は、腰掛け鎌継ぎとし、ホールダウン金物については、表示していないものとする。



※単位は、mmとする。



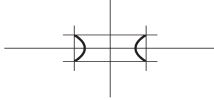


1.	イ	
2.	ロ	
3.	ハ	
4.	ニ	
5.	ホ	

[No. 16] 図のような木造平家建住宅の矩計図における [イ] ~ [ホ] の部分に用いる金物として、最も不適当なものは、次のうちどれか。



1. イ ——— ひねり金物
2. ロ ——— 羽子板ボルト
3. ハ ——— 山形プレート
4. ニ ——— アンカーボルト
5. ホ ——— かすがい

〔No. 17〕 木工事における部材の墨付けに使用する合印とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

	合 印	名 称
1.		消し墨
2.		間柱心印
3.		ほぞ穴墨
4.		水墨印
5.		切り墨

〔No. 18〕 木造住宅における屋根工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 屋根の下葺きにおいて、アスファルトルーフィングは、水下側から水上側に向かって張り進め、その重ね幅を 100 mmとした。
2. アスファルトルーフィングの棟部分の張付けは、150 mmの左右折り掛けとした。
3. 住宅屋根用化粧スレート葺板の切断及び孔あけは、押切りカッターにより行った。
4. 瓦棒葺の釘留めに当たって、瓦棒(心木)を、垂木の位置と一致させた。
5. 金属板たてどいの受金物は、取付け間隔を 900 mmとした。

〔No. 19〕 木造住宅のタイル工事及び左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床のタイル張りにおいて、化粧目地詰めは、張付け用モルタルが硬化してから目地部分を清掃した後に行った。
2. 壁のタイルの改良圧着張りにおいて、張付け用モルタルの調合は、容積比でセメント1：砂2とした。
3. 壁のタイルの改良積上げ張りにおいて、タイルの周辺から張付け用モルタルが盛り上がるまで、たたき締めた。
4. ラス下地面へのせっこうプラスター塗りにおいて、上塗りは、中塗りが十分に乾燥してから塗り付けた。
5. 壁のモルタル塗りにおいて、ラスこすりは、ラスの表面から1mm程度の厚さに塗り付けた。

〔No. 20〕 塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 吹付け塗装において、1回ごとの吹付け幅の約 $\frac{1}{3}$ が重なるように吹付けを行った。
2. 木部のクリヤラッカー塗りは、下塗りとしてウッドシーラーを塗布し、研磨紙ざり後、上塗りを行った。
3. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
4. マスチック塗材塗りは、多孔質のハンドローラーを用いて行った。
5. 合成樹脂エマルジョンシーラーの希釈には、水道水を用いた。

〔No. 21〕 内装工事等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 現場に搬入された木製建具の保管は、格子戸は立てかけとし、フラッシュ戸は平積みとした。
2. 雨がかりの引戸の召合せは、突付けとした。
3. 天井・壁の仕上げに用いる化粧合板の切断や孔あけ加工は、化粧面側から行った。
4. 壁紙は、日本工業規格(JIS)による「F☆☆☆☆」のものとした。
5. ガラスブロックの平積みの目地幅は、特記がなかったので、10 mmとした。

〔No. 22〕 設備工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

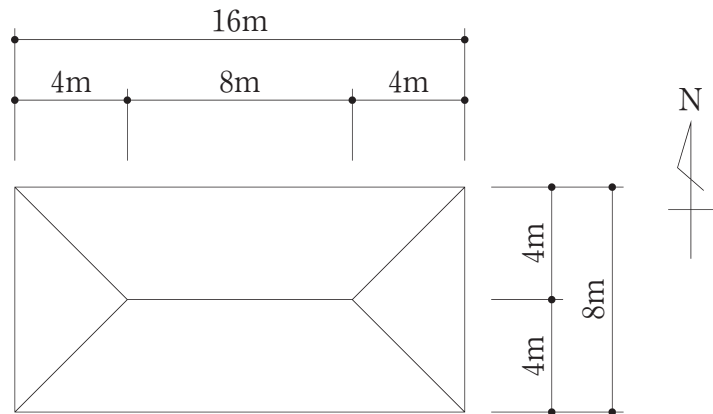
1. 排水管の満水試験を行った後、衛生器具を取付け、通水試験を行った。
2. LPガス(プロパンガス)のガス漏れ警報装置の検知器は、その上端が床面から上方30 cm以内の位置になるように取り付けた。
3. ユニット型浄化槽の埋戻しは、槽内に半分程度注水した後、良質土を用いて行った。
4. 屋内の電気配線は、弱電流電線、水道管、ガス管などに接触しないように離隔して施設した。
5. 管径 75 mmの屋内横走り排水管の勾配は、 $\frac{1}{150}$ とした。

〔No. 23〕 木造住宅の工事において使用される電動工具の説明として、最も不適当なものは、次のうちどれか。

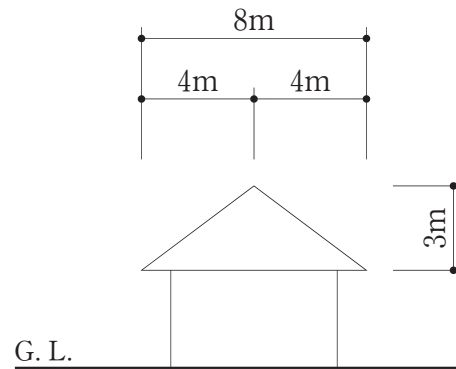
1. プレーナーとは、材の表面削りを行う鉋^{かな}又は鉋^{かな}盤である。
2. トリマーとは、切抜きや曲線の切断を行う回し挽^びきの鋸^{のこぎり}である。
3. ネイラーとは、ボード類や板材の留付けを行う釘打ち機である。
4. ルーターとは、材の面取りや溝付けを行う木工フライス盤である。
5. サンダーとは、材の平滑仕上げを行う研磨機である。

〔No. 24〕 図のような木造住宅の寄棟の屋根面積として、正しいものは、次のうちどれか。

1. 96 m²
2. 128 m²
3. 140 m²
4. 160 m²
5. 186 m²



屋根伏図



東・西立面図

〔No. 25〕 仕様書及び設計図書に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 特記仕様書の内容は、通常、設計図面に優先する。
2. 設計図書には、質問回答書が含まれる。
3. 仕様書は、工事請負契約書類の一部である。
4. 仕様書には、通常、工程表は含まれない。
5. 仕様書は、現場説明書に優先する。

